

東北海区沿岸水温予報(2018年)

海域	経過 (12～1月)	現況(2月上旬～ 2月中旬)	見通し (3～4月)	見通しの背景	特異現象 (漁海況)
三陸北部 (青森県 太平洋沿岸; 青森水総研発表)	<p>・定地水温:期間を通して低め傾向で推移した。12月はかなり低め～平年並み、1月は平年並み～かなり低めとなった。</p> <p>・12月の海洋観測の結果、津軽暖流域の表面、50m層、100m層の最高水温はともに平年並みであった。また、津軽暖流の水塊深度、東方への張り出しはともに平年並みであった</p>	<p>・定地水温:低め傾向が持続した。2月上旬はやや低め、中旬はかなり低めとなっている。</p>	<p>・津軽暖流域の水温は3～4月には平年並みに戻るものと考えられる。</p>	<p>・太平洋および我が国周辺の海況予測(FRA-ROMS)によると、親潮第1分枝はやや南偏しており、3月から4月にかけて強勢に推移するが、張り出しは南方方向であることが予想されている。</p> <p>・上記のことから、本県沿岸は広く津軽暖流に覆われる傾向にある。</p>	<p>1月30日から2月上旬にかけて、陸奥湾の東湾沿岸にマイワシが大量に打ち上げられた。</p>
三陸中部 (岩手県沿岸; 岩手水セ発表)	<p>【観測日:11月27～28日】</p> <p>《表面水温》</p> <p>10海里以内は12～13℃台であり、県南部でやや低めであった。10海里以東は、県中部から南部の30～50海里沖でやや高めであった。</p> <p>《100m深水温》</p> <p>県中部から南部の30～50海里沖でやや高めであった。</p>	<p>【観測日:1月30日～2月1日】</p> <p>《表面水温》</p> <p>10海里以内は7～9℃台であり、やや低めであった。10海里以東は、県北部の30～50海里沖でやや低め～低めであった。</p> <p>《100m深水温》</p> <p>県北部の40～50海里沖でやや低め～低め、県中部から南部の10～50海里沖でやや高めであった。</p>	<p>3月の100m深平年水温は、沿岸10海里以内で6～8℃台、10海里以東で5～7℃台であり、統計的手法を用いた予測の結果は、県中部の10海里沖の1定点でやや高めのほかは平年並みであった。</p>	<p>農林水産省「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」において開発した水温経験的予測システムを用いて解析した。</p>	<p>12月上旬に大型のサバ類(尾叉長:35～45cm)が定置網に大量入網した。(12月上旬の水揚量は904トンであり、前年同期の53倍であった)</p> <p>暖水性のマダコの水揚げが好調。</p>
三陸南部 (宮城県沿岸; 宮城水セ発表)	<p>【12月】</p> <p>表層・100m層ともに142°30'E以西では平年より1℃低め、142°30'E以東には暖水波及により1～2℃高め。</p> <p>【1月】</p> <p>表層・100m層ともに142°E以西では平年並み～1℃低め、142°E以東では平年より1～2℃高め。</p>	<p>表層・100m層ともに142°E以東で1～3℃高め、仙台湾内では1～2℃低め。</p>	<p>クラスター3(38°30'N、142°30'E以東)の水温がやや高め、それ以外の海域は平年並みで推移。</p>	<p>水温経験的予測システムの主成分スコア自己回帰モデルによる予測。</p>	<p>海況悪く、1～2月は水温観測の欠測多し。</p>
常磐北部 (福島県沿岸; 福島水試発表)	<p>【12月】</p> <p>県北:沿岸は「やや低め」、沖合は「平年並み」</p> <p>県中:沿岸、沖合ともに「平年並み」</p> <p>県南:沿岸は「平年並み」、沖合は「やや低め」</p> <p>【1月】</p> <p>県北:沿岸は「平年並み」、沖合は欠測</p> <p>県中:沿岸は「平年並み」 沖合は欠測</p> <p>県南:沿岸は「やや低め」 沖合は欠測</p> <p>※県北:37-50N、県中:37-25N、県南:37-00N 沿岸:142-00E以西 沖合:142-15E以東</p>	<p>【2月】</p> <p>県北:沿岸は「やや高め」、沖合は欠測</p> <p>県中:沿岸は「平年並み」、沖合は欠測</p> <p>県南:沿岸は「平年並み」、沖合は欠測</p>	<p>【3～4月】</p> <p>「平年並み」、もしくは「高め」基調で推移する。</p>	<p>気象庁の海面水温・1か月予報(平成30年2月20日発表)によると、三陸沖の海面水温は「平年並みか平年より高い」とされており、親潮の南限位置は「沿岸寄りの分枝が40.5°N、143.5°E付近」になると予測されている。</p> <p>FRA-ROMSの100m深水温図によると、3月上旬から4月下旬にかけて、本県海域への黒潮系暖水の波及が続くことと、親潮系冷水の波及が本県海域まで届かないことが予測されている。</p> <p>以上のことから、3月～4月にかけて平年並み、もしくは高め基調で推移すると予測した。</p>	
常磐南部 ～鹿島灘 (茨城県沿岸; 茨城水試発表)	<p>12月は、表層および50m深では、暖水波及の影響により概ね全域で「平年並み～やや高め」となった。100m深以深でも概ね「平年並み～やや高め」であったが、南部沿岸域では「やや低め」となった点もみられた。</p> <p>1月は、犬吠埼定線では黒潮が離岸したことにより「平年並み～やや低め」であった。会瀬～鹿島定線では暖水の影響が残る「平年並み～やや高め」で、一部「高め」の点もみられた。</p>	<p>2月は、冷水南下の影響によりほぼ全域で「平年並み～やや低め」となり、沖合域の一部では「低め」となった点もみられた。会瀬～鹿島定線の広い範囲で強い南向きの潮流が観測された。</p>	<p>「平年並み～やや低め」で推移する。</p>	<p>①2月の海洋観測データを用いて自己回帰分析を実施したところ、3月は「平年並み～やや低め」、4月は「平年並み」との予測結果となった。</p> <p>②FRA-ROMSによると、3月上旬は「平年並み～やや低め」、4月上旬は犬吠埼定線を除き概ね「平年並み」で推移する予測となっている。</p> <p>③気象庁2/9発表の「関東甲信地方3か月予報」によると、3～4月の平均気温は「低め」:40%、「平年並み」:40%、「高め」:20%となっている。</p>	<p>①12月中旬、沿岸底曳網にスジヒメボヤと思われる付着生物が確認された。</p>

各階級の水温年平均偏差の範囲

階級区分(出現率)	三陸北部	三陸中部		三陸南部	常磐北部	常磐南部～鹿島灘
		距岸 10 海里内	距岸 10～70 海里			
極めて高い(2.5%)	+3.1℃～	+3.7℃～	+5.8℃～	+5.7℃～	+4.8℃～	+6.1℃～
高い (7.5%)	+2.0～+3.0℃	+2.4～+3.6℃	+3.8～+5.7℃	+3.7～+5.6℃	+3.1～+4.7℃	+4.0～+6.0℃
やや高い (20%)	+0.8～+1.9℃	+1.0～+2.3℃	+1.5～+3.7℃	+1.5～+3.6℃	+1.2～+3.0℃	+1.6～+3.9℃
平年並 (40%)	+0.7～-0.7℃	+0.9～-0.9℃	+1.4～-1.4℃	+1.4～-1.4℃	+1.1～-1.1℃	+1.5～-1.5℃
やや低い (20%)	-0.8～-1.9℃	-1.0～-2.3℃	-1.5～-3.7℃	-1.5～-3.6℃	-1.2～-3.0℃	-1.6～-3.9℃
低い (7.5%)	-2.0～-3.0℃	-2.4～-3.6℃	-3.8～-5.7℃	-3.7～-5.6℃	-3.1～-4.7℃	-4.0～-6.0℃
極めて低い(2.5%)	-3.1℃～	-3.7℃～	-5.8℃～	-5.7℃～	-4.8℃～	-6.1℃～